

■ 議長記者会見概要

日 時：平成26年2月26日（水）14：00～14：10

場 所：県政記者クラブ（県庁内）

出席者：山下力議長、井岡正徳副議長、国中憲治広報委員会座長



井岡 正徳 副議長

山下 力 議長

国中 憲治 広報委員会座長

〈案件〉

（1）定例県議会開会にあたって

本日の定例県議会で知事から60件に及ぶ議案の提出と所信表明演説がございました。

経済構造の改革、地域産業の支援・創出、そして雇用対策の問題に力点を置くと同時に、農林業の振興、とりわけ農業では6次産業化の研修拠点施設等の整備、林業ではバイオマスの発電施設等の整備に対する支援の方向も出ました。

さらにまた、9月定例会で採択された精神障害者に対する福祉医療制度の適用に関する請願に関して、医療費の助成範囲を拡大する旨の予算案が上程されました。当該予算案は平成26年10月1日から適用で、半年分の予算で1億6千万円となっています。今後、通年になりますと単純に2倍して3億2千万円で、実施主体の市町村の3億2千万円をいれますと、年間合計6億4千万円というかなりのボリュームのある対策が提案されました。この請願は議会が全会一致で採択して知事に対応を求めた案件でございましたので、上程されて非常によかったと思っております。

(2) 議会改革シンポジウムの開催について

ことしも奈良県議会主催で議会改革に関するシンポジウムを平成26年4月21日(月)奈良県社会福祉総合センター(橿原市)で開催したいと思っています。市町村議会議員も含めまして昨年に続いて300名の規模で行いたいと準備をしているところです。

(3) 「大和のうま酒」乾杯推進に関する決議案について

奈良市の菩提山正暦寺が日本酒の発祥の地といわれています。そして、日本酒は地場産業としても欠くことのできない産業として持続的に発展してきて、今後も力を入れていかなければならない産業であります。

これらのことから、県議会では景気よく、はしゃぎを入れて日本酒の推進の方向が勢いづいたらということで『大和のうま酒』乾杯推進に関する決議の提案をすることにいたしました。ことしのベトナム社会主義共和国フートー省と奈良県との友好県省関係の発展に関するMOU締結式会合の懇親会で、私の方からそういう趣旨で日本酒で乾杯したいと、この決議に先取りして日本酒の乾杯をさせていただいたところがございます。

〈質疑応答〉

記者：「大和のうま酒」乾杯推進に関する決議案はどのような内容ですか。

議長：日本酒で乾杯することを推進するという簡潔な内容です。

広報委員会座長：ひとり一人のお酒の趣向は、ビールの好きな方などいろいろとおられると思います。現在、奈良県は酒造業者が何社もありますが、日本酒離れが進んでいる状況です。催事の乾杯だけでも、日本酒で盛り上げていこうではないか、そして、できたらそれをずっと続けていただいたら、日本酒の消費も伸びるのではないかと思うのです。

さきほど議長からフートー省との懇親会の話でもありましたように、県主催の懇親会等でも、日本酒での乾杯の推進に結びつけていけるのではないかと思います。そして、奈良県での日本酒産業がもっと繁栄し、なおかつ米作りの推進にもつながっていくのではないかと私達は思っております。

そういうことで、この決議は県議会全会一致でご賛同いただく予定になっています。

記者：決議の提案はいつすることになりますか。

議長：定例会最終日(3月25日)の予定です。

記者：奈良県議会議員定数等検討委員会での検討状況はどうですか。

議長：まだ各会派で意見交換をしている段階でございます。具体的な提案をしている会派もあります。委員長の新谷議員からの報告では次回4回目の委員会からまとめに入っていくということでございますので、議員定数をどうしていくかという審議がこれから本格的にはじまると思っています。

6月定例会県議会に間に合うよう審議をお願いしています。